

資料は、ジェンダーと労働に関する文章です。これを読み、問1から問5に答えなさい。

問1 「性別分業」とは何か。40字以内で説明しなさい。

問2 下線部「女性の家庭役割の大きさ、シングルマザーの貧困、そして仕事環境の厳しさ」とあるが、何が原因でそのような諸問題が生じているか。本文に即して、適切ではないものを、次のア～エから1つ選びなさい。

ア 性別分業社会 イ 日本的雇用 ウ 家族主義 エ 世代間格差

問3 図18-3から読み取れることとして、適切なものはどれか。次のア～エから1つ選びなさい。

- ア 管理的職業従事者および雇用者に占める女性の割合の両方において、OECD平均より低い数値を示しているのは日本と韓国のみである。
- イ 北欧諸国の管理的職業従事者に占める女性の割合はすべて30%以上であり、日本より大幅に高い。
- ウ 雇用者の中で女性が占める割合は、欧米諸国が47%前後、日本は約44%であり、両者に大きな差はない。
- エ 男女賃金格差指標では、日本の賃金格差はOECD加盟国の中では韓国に次いで高い水準にある。

問4 著者は図18-4を示しつつ、本文で何を論じようとしているか。適切ではないものを、次のア～エから1つ選びなさい。

- ア 女性の就業率を問題にするのみではジェンダー問題が解決しないこと。
- イ 社会背景ごとに問題とすべきジェンダーのあり方は多様であること。
- ウ 日本のひとり親は就業率が高いにもかかわらず相対的貧困状態にある背景に、男女の賃金格差があること。
- エ 日本では、養育・ケアにかかわる労働を市場化できているといえること。

問5 日本における労働とジェンダーの問題について、資料の内容を踏まえ、あなたの意見を600字以上800字以内で述べなさい。

資料出典

筒井淳也「ジェンダーと経済格差」、『ジェンダーの発達科学』、日本発達心理学会編（高橋恵子・大野祥子・渡邊寛[責任編集]）、新曜社、2022年、pp. 276-280（第18章より第3節抜粋、一部改変）。